

FY2021
(2021年11月期)

通期決算説明資料

アルテック株式会社

(証券コード：9972)
2022年2月17日

● FY2021 業績ハイライト P.3
● FY2021 セグメント別業績 P.6
● FY2021 連結財政状況 P.11
● FY2022 業績予想 P.14
● FY2022 成長戦略 P.16

FY2021 業績ハイライト

FY2021 連結業績 (2020年12月1日～2021年11月30日)

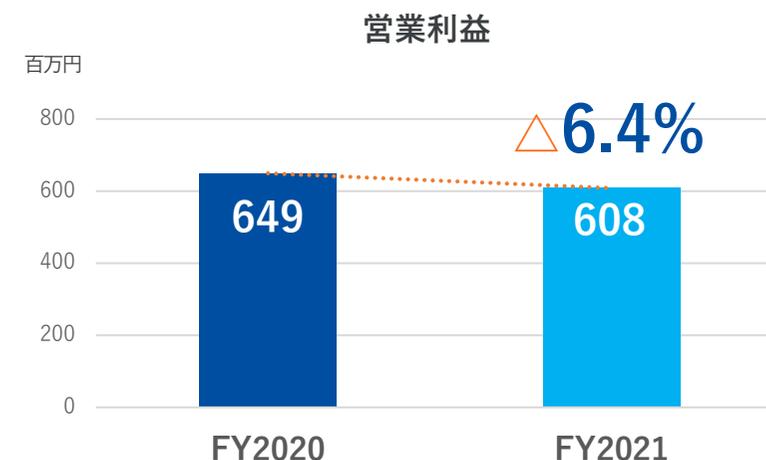
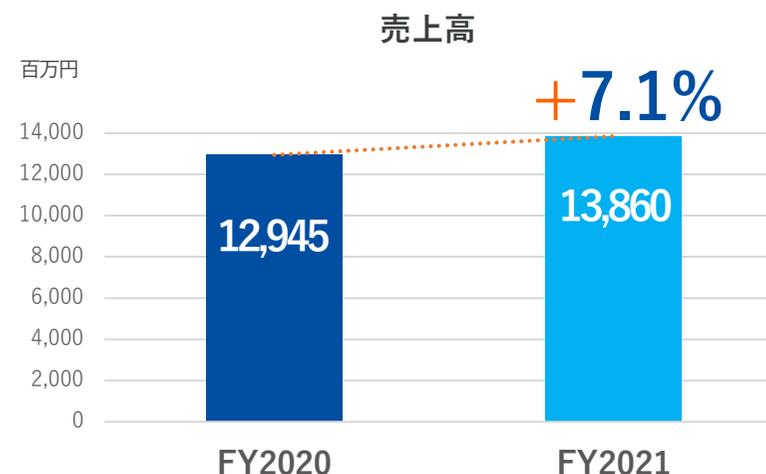
売上高

前期比 (増減)
13,860 百万円 **+7.1%** (+915百万円)

営業利益

前期比 (増減)
608 百万円 **△6.4%** (△41百万円)

- 当連結会計年度における我が国経済は、設備投資や生産等に持ち直しの動きが見られたものの、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う緊急事態宣言の再発令等の影響により経済活動が抑制され、企業収益や個人消費に弱さが見られる等、厳しい状況で推移。
- 海外においては、米国や中国といった一部の国々においては回復傾向となったものの、欧州やASEANの各国においては新型コロナウイルス感染症の感染再拡大の影響により引き続き厳しい状況で推移。



FY2021 連結業績推移

(単位：百万円)

	FY2017	FY2018	FY2019	FY2020	FY2021	前期比
売上高	15,173	16,200	14,562	12,945	13,860	+7.1%
営業利益	634	700	610	649	608	△ 6.4%
営業利益率	4.2 %	4.3 %	4.2 %	5.0 %	4.4 %	—
経常利益	654	721	587	700	654	△ 6.6%
経常利益率	4.3 %	4.5 %	4.0 %	5.4 %	4.7 %	—
当期純利益	654	583	509	595	542	△ 9.0%
EPS	38.16円	34.02円	30.11円	37.56円	35.96円	—



FY2021 セグメント別業績

FY2021 商社事業の業績概要

売上高

前期比（増減）
8,502百万円 **+5.8%** (+469百万円)

セグメント利益

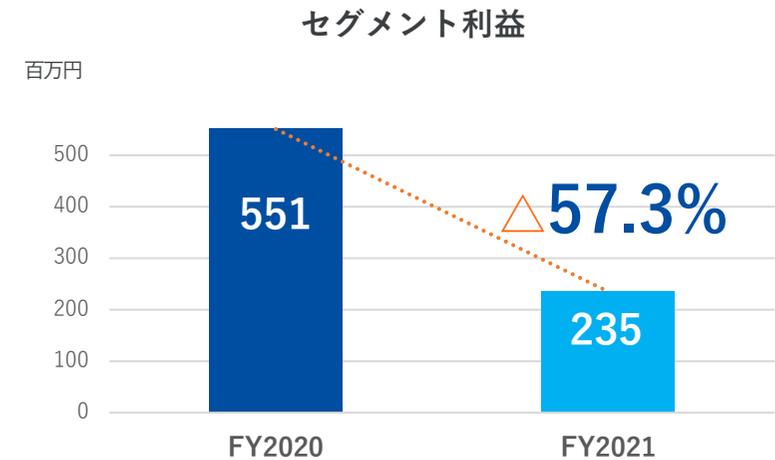
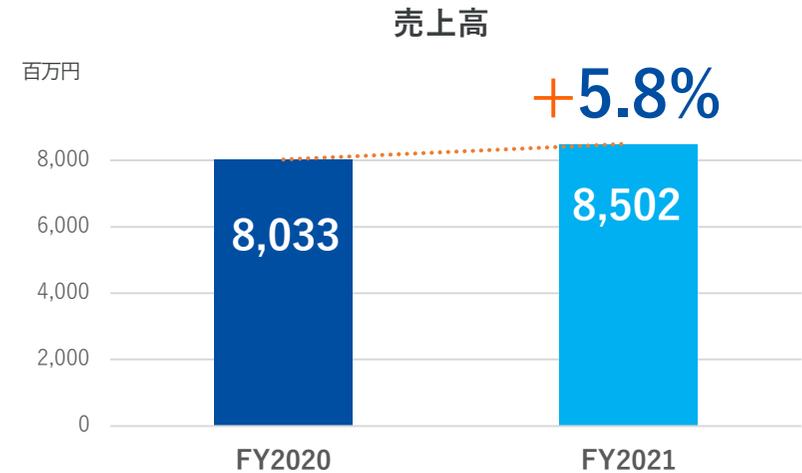
前期比（増減）
235百万円 **△57.3%** (△316百万円)

【売上高】

少子高齢化による労働力不足等による、業務効率の改善が深刻な問題となっている物流・製造現場等の課題解決に対応した設備投資需要を取り込み、物流・ロジスティクス関連機器等の販売が増加、またミネラルウォーター製造システム等の大型機械の検収が完了したことで増収。

【セグメント利益】

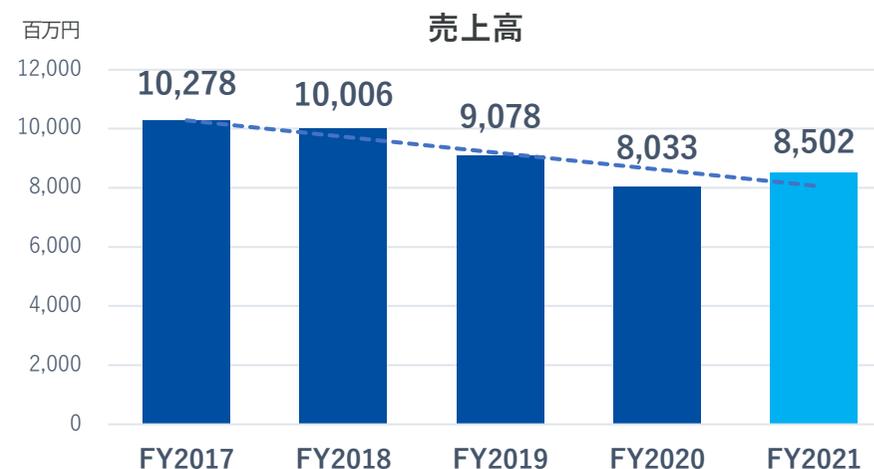
コロナ禍でサプライチェーンへの影響による納期遅延や物流コスト等の営業費用の増加により減益。



FY2021 商社事業の業績推移

(単位：百万円)

	FY2017	FY2018	FY2019	FY2020	FY2021	前期比
売上高	10,278	10,006	9,078	8,033	8,502	+5.8%
セグメント利益	792	717	590	551	235	△ 57.3%
セグメント利益率	7.7%	7.2%	6.5%	6.9%	2.8%	—

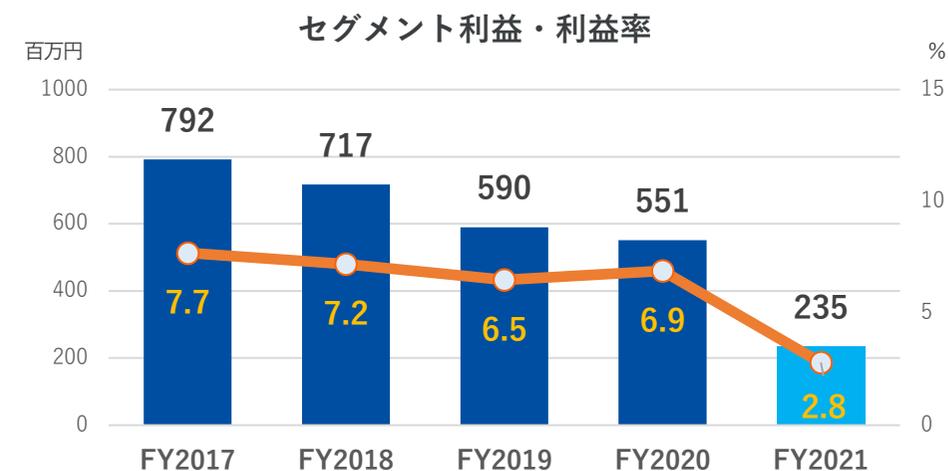


【売上高】

中期経営計画の達成に向けて、既存商権の拡販、新規商権の発掘等に取り組むが、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響等もあり、減収傾向で推移。

【セグメント利益】

売上高が減少傾向にある状況下、コストコントロール等を徹底し利益確保に努めてまいりましたが、売上高の減少を補えず減益傾向で推移。



FY2021 プリフォーム事業の業績概要

売上高

前期比（増減）
5,528百万円 **+11.9%** (+588百万円)

セグメント利益

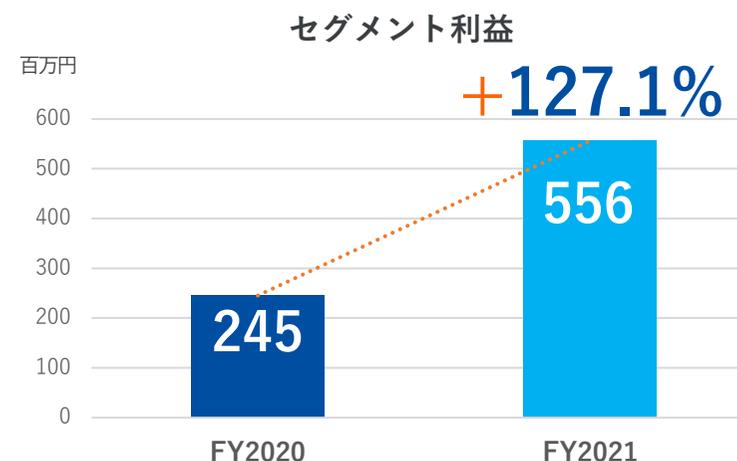
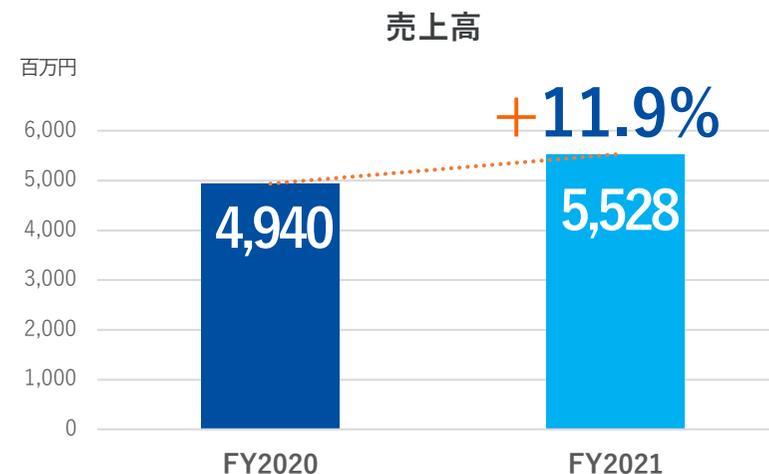
前期比（増減）
556百万円 **+127.1%** (+311百万円)

【売上高】

前期、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け一時操業停止していた中国4工場が一年を通じて安定稼働したことに加え、飲料用プリフォームの販売数量が堅調に推移し増収。

【セグメント利益】

継続的に生産効率の向上に努めたことにより増益。



FY2021 プリフォーム事業の業績推移

(単位：百万円)

	FY2017	FY2018	FY2019	FY2020	FY2021	前期比
売上高	4,937	6,263	5,518	4,940	5,528	+11.9%
セグメント利益	37	149	159	245	556	+127.1%
セグメント利益率	0.8%	2.4%	2.9%	5.0%	10.1%	—

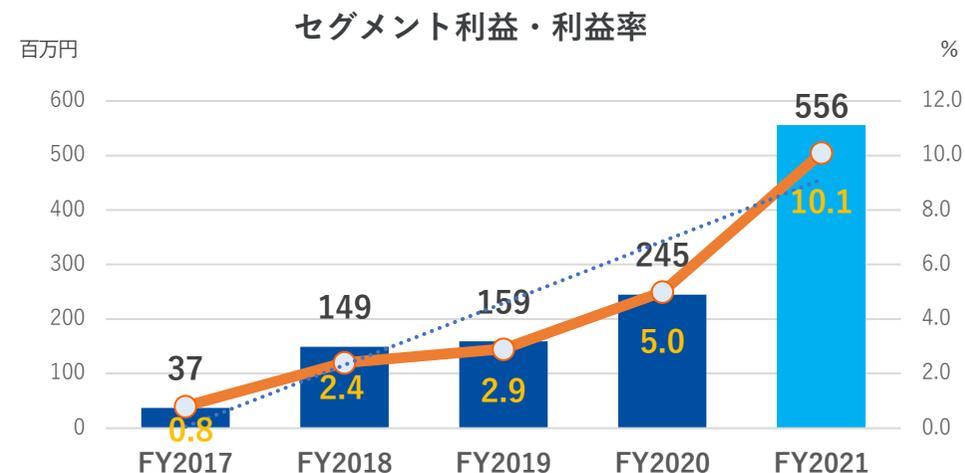


【売上高】

新型コロナウイルス感染症の拡大の影響はありましたが、おおよそ50～60億円の間で推移。

【セグメント利益】

継続的に生産効率改善等に努めたことで、増益傾向で推移。



FY2021 連結財政状況

連結財政状況（要約貸借対照表）

(単位：百万円)

	FY2019		FY2020		FY2021		増減額	主な増減要因
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比		
流動資産	8,527	61.1%	10,616	65.6%	12,309	62.8%	+1,692	現金及び預金：+372 商品及び製品：+563
有形固定資産	3,377	24.2%	3,488	21.6%	5,123	26.2%	+1,634	建物及び構築物：+315 建設仮勘定：+1,124
無形固定資産	414	3.0%	406	2.5%	478	2.4%	+71	—
投資（その他資産）	1,646	11.8%	1,668	10.3%	1,677	8.6%	+9	—
流動負債	3,123	22.4%	4,809	29.7%	6,821	34.8%	+2,012	短期借入金：+1,143 前受金：+821
固定負債	682	4.9%	746	4.6%	1,176	6.0%	+430	長期借入金：+455
純資産	10,161	72.8%	10,625	65.7%	11,590	59.2%	+965	自己株式取得：△199 利益剰余金：+495
資産合計	13,966		16,180		19,589		+3,408	

連結財政状況（自己資本等の推移）



(単位：百万円)

	FY2017実績	FY2018実績	FY2019実績	FY2020実績	FY2021実績
自己資本	9,784	10,127	9,965	10,342	11,305
自己資本比率	60.2%	67.0%	71.4%	63.9%	57.7%
有利子負債比率 (対自己資本)	28.2%	16.6%	10.4%	9.7%	22.5%

FY2022 業績予想

FY2022 連結業績予想

売上高

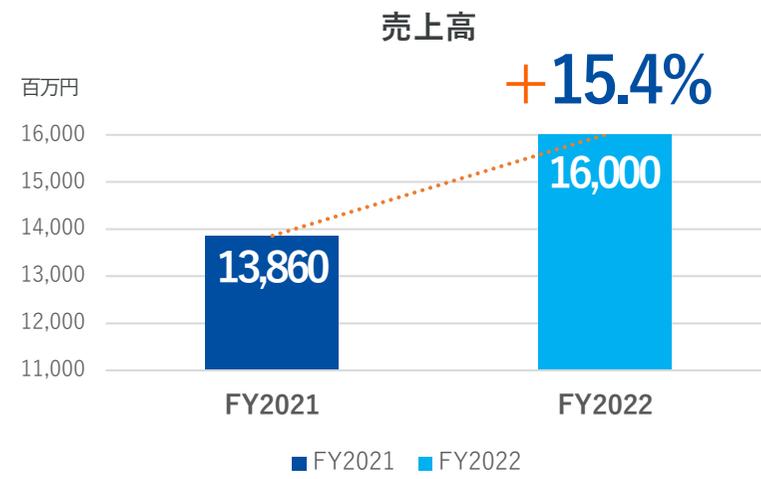
前期比 (増減)

16,000 百万円 **+15.4%** (+2,139百万円)

営業利益

前期比 (増減)

500 百万円 **△17.8%** (△154百万円)

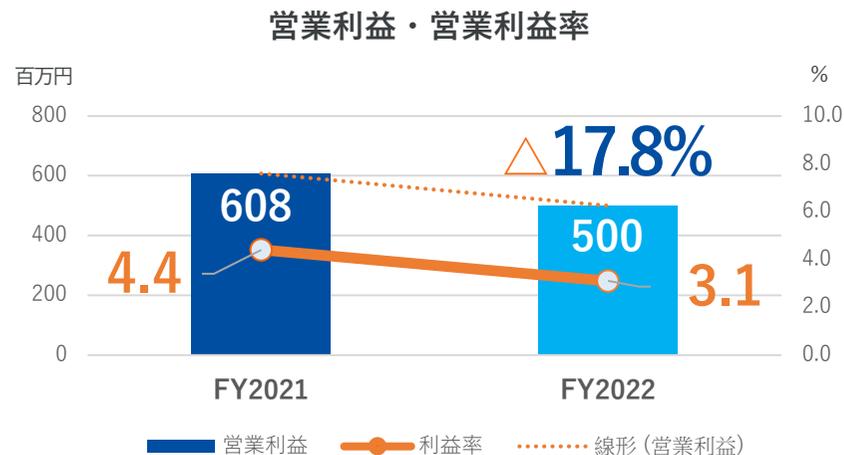


【売上高】

新型コロナウイルスの感染者数が急増しており、社会活動や経済活動への影響が懸念されていますが、夏場にかけて終息し、経済活動が回復に向かうことを見込んで、増収を予想。

【営業利益】

物流サービスロボット・自動化システム関連のマーケティング費用や人材への投資、中期経営計画の重点施策にもあるペットボトルリサイクル事業や、カーボンニュートラル実現に向けた再生可能エネルギー事業等の新規事業への先行投資等により減益を予想。



※FY2022の期首より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を適用するため、連結業績予想の数値は当該等会計基準等を適用した後の数値であります。

FY2022 成長戦略

環境・社会の課題解決に貢献する企業を目指すために、サステナビリティの取り組みを重点施策として関連する業界と市場の動向にマッチした持続可能な成長戦略を推進します。

市場拡大が予想される

既存事業の付加価値の創出・最適化

- 既存商権の深化
- 戦略商権の発掘

重点施策

- 既存商権で安定した収益の確保
- 周辺機器への商権拡大と提案力の向上
- 無人化、非接触等の社会課題の解決に貢献する商品・サービスの提供

業界の動向を見据えた

新事業の育成

- 社内資源の有効活用
- 外部資源の活用による事業化の推進

重点施策

- ペットボトルリサイクル事業の取り組み
- カーボンニュートラル実現への取り組み

SDGs 経営を推進し

経営基盤の強化

- SDGs経営への取り組みおよびガバナンス強化
- 間接業務やマーケティング戦略の最適化
- 営業部門間の連携強化および事業部主導の機能別管理体制の構築

重点施策

- 環境問題に取り組む企業への貢献
- 競争力向上を目的とした DX の取り組み強化
- 成長戦略を実現する組織体系の強化

SDGs 経営を推進し経営基盤を強化

アルテックグループとしてSDGs経営への取り組みおよびガバナンス強化に向けて、**SDGsの基本方針を設定しマテリアリティ（重要課題）を特定しました。**

SDGsの基本方針

アルテックグループは、「世界中の優れた商品を提供しモノづくりの支援を通じて社会に貢献する」というビジョンのもと、商社事業およびプリフォーム事業を両輪として、SDGsに取り組む企業が抱える課題を解決することでステークホルダーとの絆を深め、持続可能な社会の実現と美しい地球環境の保全に貢献します。

当社では、**E（環境） S（社会） G（ガバナンス）** すべてにおいて配慮しながら経営を行ってまいります。

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



アルテックグループの取り組み

水資源の有効活用

ボトルtoボトル

カーボンフットプリント

水素エネルギー

労働力不足と作業

働きがいのある職場

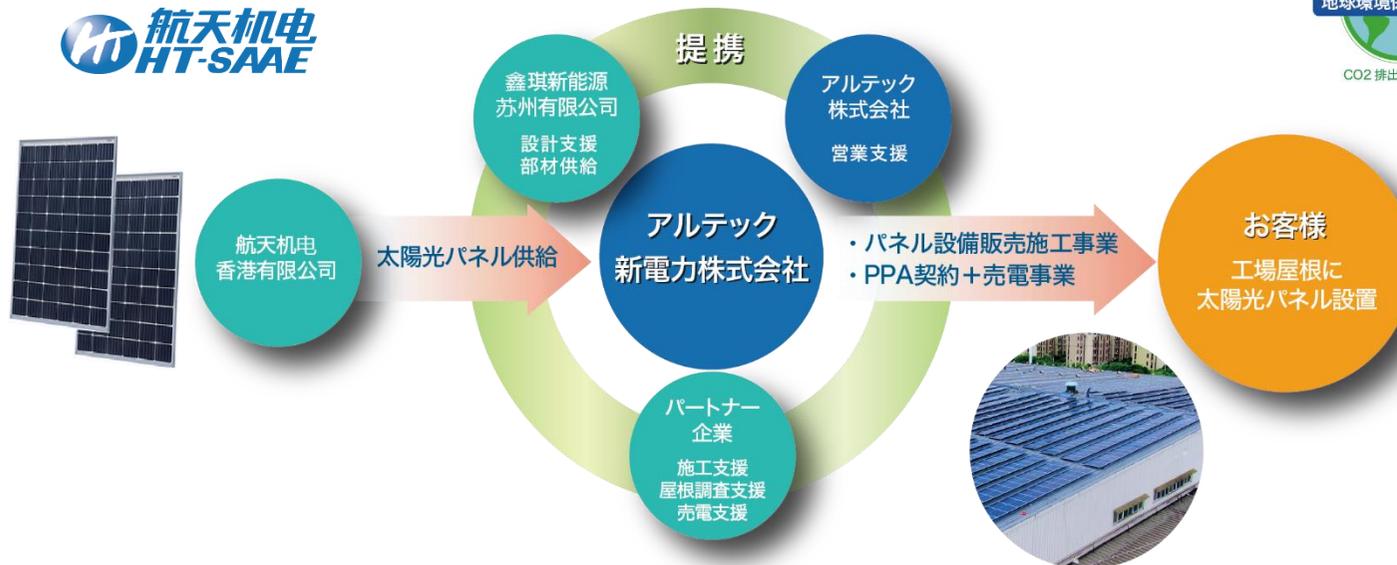
2050年カーボンニュートラルの実現への取り組み

太陽光発電設備の導入や売電等のサービスを提供を通じてお客様と共に業界全体のカーボンニュートラル達成を目指します。

2021年8月に「アルテック新電力株式会社」を設立

カーボンニュートラル実現のため企業の対策が加速する中で、取引先企業などをターゲットとした太陽光発電システムの販売・据付け・売電サービスを開始しました。当社が関連する業界全体のカーボンニュートラル達成を目指してサポートします。

PPA モデル



2050年カーボンニュートラルの実現への取り組み

アルテックグループの工場屋根に太陽光設備を設置しCO2削減に取り組みます。

愛而泰可新材料（蘇州）有限公司の屋根に6メガワットの太陽光発電システムを設置。

2021年10月、アルテックグループである愛而泰可新材料（蘇州）有限公司のプリフォーム製造工場の屋根約37,500㎡に太陽光パネル15,000枚を設置。工場の消費電力の約21%を補う。
CO2削減 約4,550（t-CO2）の計画して稼働中。



2022年、アルテック新材料株式会社の工場屋根に太陽光発電システムを設置予定。

アルテック国内グループであるアルテック新材料株式会社の工場屋根にソーラーシステムを設置予定。
CO2削減量 約230（t-CO2）を計画。



ペットボトルリサイクル事業の取り組み

2030年 **ボトル to ボトル** の水平リサイクルを推進します。

高品質な食品グレードのリサイクルPET樹脂製造装置を販売

商社事業としては、このリサイクルPET樹脂再生装置を拡販。

リサイクルPET樹脂を使用したプリフォームを製造販売

海洋環境汚染の対策としてペットボトルのリサイクルが加速、アルテック新材料株式会社では、食品グレードのリサイクルPET再生装置を導入。高品質なリサイクルPET樹脂を使用したプリフォームを生産して供給します。



リサイクルPETフレーク



再生したペレット



NGR社製PET樹脂再生装置



再生ペレットでプリフォームを製造

搬送ロボット・自動収納庫の販売・サービス体制の強化

省エネ省人化対策としてスマートロジスティクス化の需要が急増。

2021年、アルテックロボティクスセンターを開設

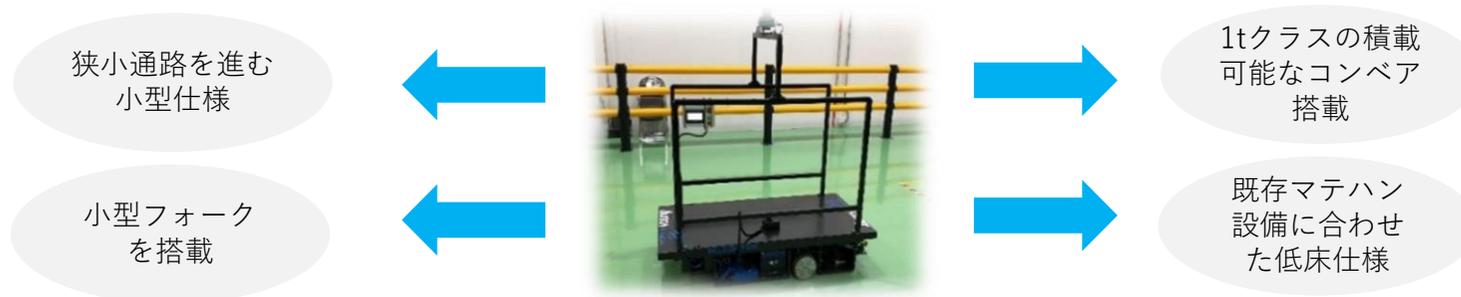
新型コロナウイルス感染症の影響と消費者ニーズの多様化によりeコマース市場が急成長し、物流倉庫など人手不足が深刻な状況下でスマートロジスティクス化の需要が急増。搬送ロボットの出荷調整やメンテナンス等を行う専用のセンターを開設しました。



アルテックロボティクスセンター

オーダーメイドの自律走行型搬送ロボットを販売開始

お客様の抱える構内物流の多様化する現場課題に合わせて様々なタスクをこなす自動搬送ロボット（AMR）を、最適な仕様でご提供します。



効率性、セキュリティ、安全性を兼ね備えた自動収納庫システムの販売強化

小規模のネットショップに最適な自動倉庫から、製造業の資材管理に最適な製品や、中規模・大規模の在庫型物流センター向け、長物や重量物用の自動倉庫まで拡張性の高い自動収納庫システムをご提供します。



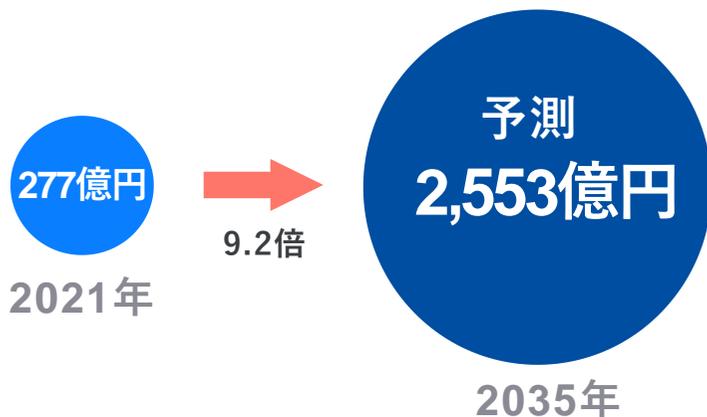
自動収納庫システム

【市場規模予測】

- 太陽光発電システム（PPAモデル）の国内市場予想規模 2,553億円（2021年度比 9.2倍）
国内における設置は自家消費型へ移行し、PPAモデルがけん引。
- リサイクル樹脂やバイオ樹脂の採用拡大によりPETボトルの国内市場規模予想4,195億円（2024年度比17%増）
飲料メーカーや消費財メーカーなどの大手企業は、2030年までにプラスチックパッケージのリサイクル率を50%以上にすることを約束しています。これに伴い、食品グレード認証を受けた再生材の需要が高まると予想されます。
- 建設／物流・搬送／レスキュー／インフラ／農業用ロボットの世界市場予測は1兆円超
新型コロナの流行を背景に自動化や省人化、非接触対応ニーズが高まり、市場は拡大予想。

太陽光発電

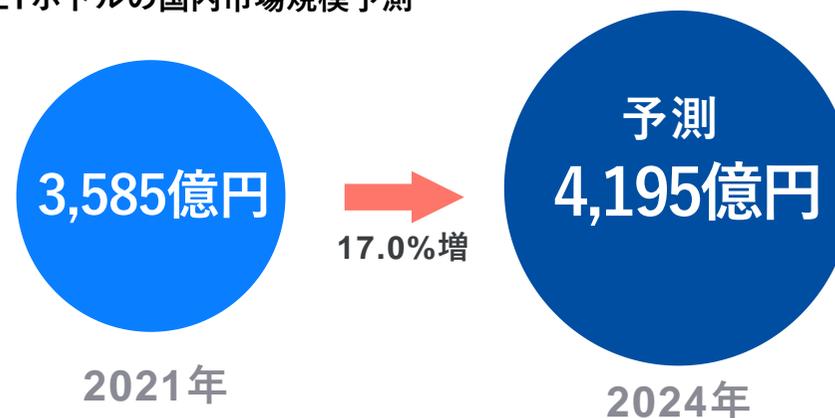
第三者所有モデル（PPAモデル、リース）の市場規模予測



参照：株式会社 富士経済 太陽光発電システム、太陽電池の国内市場調査結果

PET製容器

PETボトルの国内市場規模予測



参照：株式会社 富士経済 容器包装・材料の国内市場調査結果

物流・搬送用ロボット

建設／物流・搬送／レスキュー／インフラ／農業用ロボットの世界市場規模予測

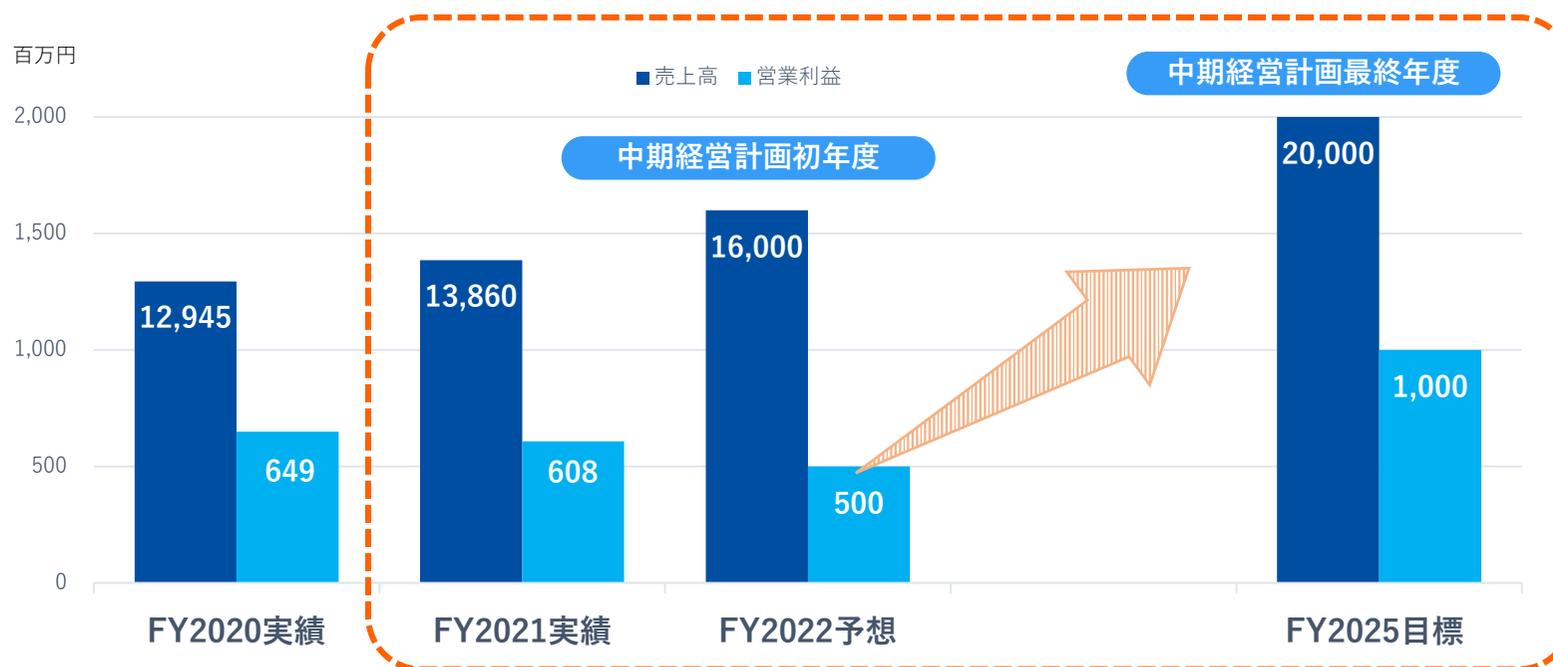


参照：株式会社 富士経済 業務・サービスロボットの世界市場を調査結果
(注) 2025年予測(2020年比) 業務・サービスロボットの世界市場 4兆1,578億円 (76.9%増)

経営数値目標

経営数値目標：営業利益率 5.0 %以上、ROE 8.0 %以上

売上高・営業利益推移予想

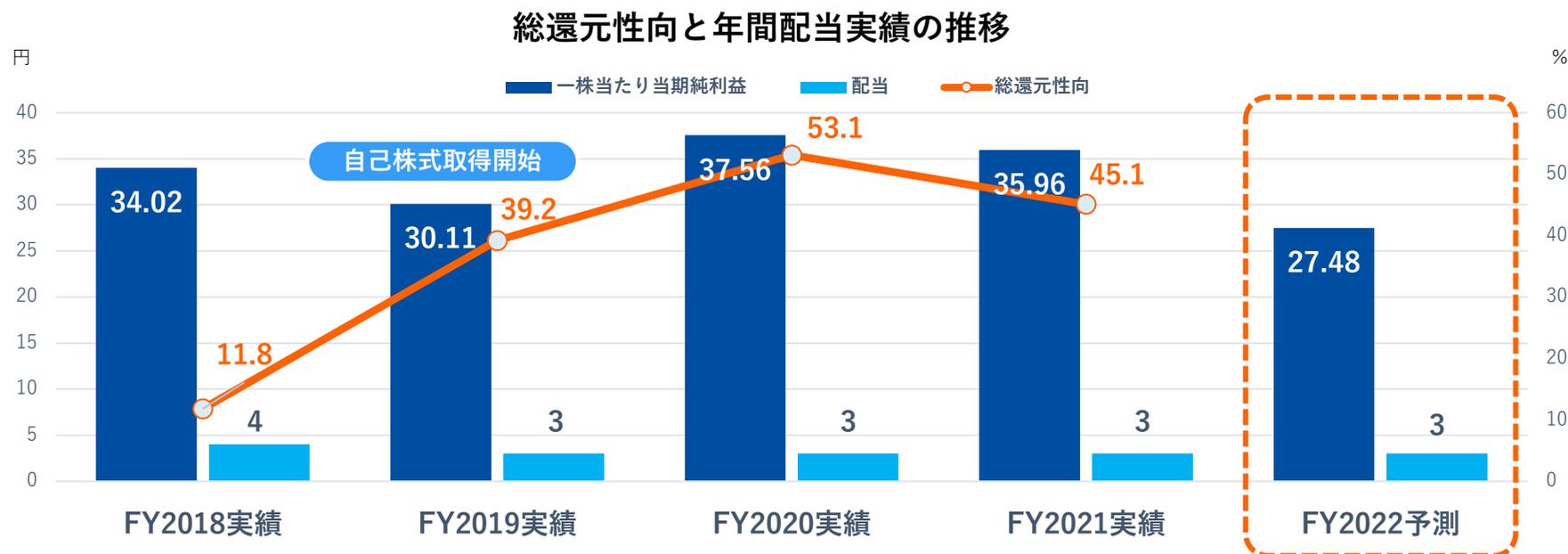


営業利益率・ROE推移予想

	FY2020実績	FY2021実績	FY2022予想		FY2025目標
営業利益率	5.0%	4.4%	3.3%		5.0%以上
ROE	5.9%	5.0%	—		8.0%以上

株主還元実績

株主の皆様への継続的かつ安定的な利益還元を最優先とし、一方で企業基盤の安定を図るために内部留保を充実させることを利益配分の基本方針としております。また、自己株式の取得につきましても、株主還元の強化および資本効率の向上のための選択肢の一つとして位置付けており、経営環境や財務体質を勘案のうえで実施を検討しております。



自己株式取得の実績

	FY2019実績	FY2020実績	FY2021実績
取得した株式の総数	672,500 株	1,113,800 株	639,900 株
株式の取得価額の総額	149,968,000 円	269,966,400 円	199,962,400 円



※将来に関する記述等についてのご注意

本資料にて開示されているデータや将来予測は、本資料の発表日現在の判断や入手可能な情報に基づき、当社が判断した内容であり、潜在的风险および不確実性が含まれております。これらの目標や予想の達成および将来の業績を保証するものではありません。これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。本情報および資料の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行って下さいますようお願いいたします。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。